

2018年6月29日  
宮越ホールディングス株式会社

## 第7回定時株主総会、深圳プロジェクト関連の主な一問一答

6月28日開かれた第7回定時株主総会で質疑応答がありました。深圳プロジェクトに関連する主な一問一答は以下の通りです。

問：深圳プロジェクトの進捗状況と今後のスケジュールを教えてください。

答：中国での開発計画を進めるとき当局は、一般論ですが、初めからいいとか、悪いとかの判断は示しません。双方で擦り合わせをしてよいというものは開発許可の申請をさせる。申請すれば案件によりますが、45日とか3か月で結論が出ます。出すことになっています。逆に言うと結論が出せないような生煮えの案件は受け付けません。申請が出ればスケジュールが見えてくることになります。7月1日から中国に参りますが、そこでも突っ込んだ話が出ると思います。報告するような話が出ればホームページでお知らせします。

イノベーションセンターを作るといってもイメージがわからないという方もいらっしゃると思います。要は中国各地から有力企業250社を中国政府の協力を得て集めていただく。その他の日本、アジア、欧米から250社を我々が集めます。計500社の技術部隊や営業部隊を深圳のWIC（ワールド・イノベーション・センター）に集結します。こうなると、日本の会社が中国に行ってどこの誰と話せばいいのかわからないという場合にも我々を通していただければ、その企業を紹介したり、あるいは政府と話していけばいくらかでもご紹介できます。と同時に、中国の250社は相当大きな会社が入ってくる予定ですので、こうした企業を通じて開発、営業情報が即座に中国全土に流されることでしょう。

それから中国での営業活動を例にとると、深圳から北京の出張は1日かけて移動、翌日営業、3日目に帰路となり、3日間潰れます。それがWICでは中国の250社が入居しています。日本の大手企業が「我々はこんなものを開発している。興味ある人は10階の喫茶店に集まってください」と招集をかける。移動はエレベーターで済む。こんな形の営業が世界の有力500社間で進められる。こんな例はないでしょう。我々はそれを作ろうとしています。

問：資本戦略についてお聞きします。今後の資本増強策として有力企業との提携の可能性はありますか。

答：固有名詞は出せませんので一般論でお話しします。資本参加したい会社は多くありますが、当社ではそれを受ける考えはありません。

再開発現場のある深圳市は沸き返るような状況です。深圳という場所はとんでもな

く素晴らしい場所になったことをご理解いただきたい。私たちは皆さんに長期保有の株主になっていただけるよう考えています。例えば、我々の土地の借地権は50年間です。すでに30年経ちました。ここで再開発すると残る20年分はお返すことになりますが、新たに50年間の権利を得ます。これから50年間で最も収益力の高いものにするべく進めているのもそのためです。

問：プロジェクトの工期を4期に分けていますが、大型ファイナンスが可能な場合、4期を3期、あるいは2期に短縮することを想定していますか。

答：ご質問にあるようなことはいろいろ考えています。中国政府はイノベーションを掲げてやるのだから早くやってくれ、イノベーションらしく環境をよくして深圳市の見本になるようにしてくれ、まあいろんなことをいってきています。それぞれ努力いたします。ですから工期についても早くなる可能性はありますが、今は約束できる段階ではありません。

以上